

【提出意見】

京都教育大学 古賀 松香
専門分野：幼児教育・保育

これまでの審議経過のとりまとめ、ありがとうございました。子どもが主体的に学び続ける質の高い教育のつながりを持続可能にするために、さまざまな議論が前向きになされていると理解いたしており、基本的な方針について賛同いたします。その上で、大変細かい点になりますが、今後の議論においてご配慮いただきたい点について、下記いたします。

1. 幼児期からの教育課程のつながりに関する小学校以上の教員養成課程での理解の必要性

企画特別部会における議論において、幼児教育からの教育課程のつながりある議論がなされていると理解していますが、現在の小学校以上の教員養成課程において、幼小接続が必修内容として取り扱われておらず、入職段階で幼児教育に関する基本的な理解すなわち環境を通じた教育や自発的な遊びを中心とする指導等による幼児期にふさわしい発達を助長する教育の在り方が理解されていないことは大きな課題です。今後の幼保小の架け橋プログラムの一層の推進力となるよう、小学校以上の教員養成課程の内容に幼児教育及び幼保小の架け橋プログラムの基本的理解について、含めていただきたいと思います。

なお、上記のような現状があることから、教職大学院において幼保小連携・接続について取り上げる科目はニーズが一定存在すると感じており、卑近な例で恐縮ですが、本学教職大学院におきましても幼児教育専攻以外の院生が多く受講登録する科目となっておりますことをご参考までに申し添えます。

2. 教職大学院における現職者の学び直しに資する柔軟で質の高い在り方について

現職者の学び直しニーズは高くありながらも、終業後に通うことの時間的・距離的難しさ等、教職大学院に通うことの実現が難しいケースは多くあります。今回検討されている、オンライン授業やオンデマンド教材での学び直しが可能になるとすれば、現職者にとっても有用な手立てとなると思われますが、実践の質向上を目指すときにはやはり具体的な事例の検討や対面を取り入れた往還的な授業が重要になると考えられます。学び直しのニーズに広く応えられる工夫をしつつも、実践の質向上に具体的にアプローチできるような在り方の検討をぜひお願いしたいと思います。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。